

大学名

埼玉大学(研究機構レジリエント社会研究センター)

表題

レジリエント社会研究センターの取組

特色ある取組

埼玉大学では、理工系と人文社会系を融合した新しい研究拠点として、2014年に「レジリエント社会研究センター」を設立し、老朽化していく社会インフラの維持・管理に関する研究、世界的に増加しつつある地震、津波、洪水、土砂災害などに対する防災・減災に関する研究、災害からの社会が速やかに回復するために、リスク発生前後の人間の行動および住民の意識や政策面での改革に関する研究など、真のレジリエント社会構築に向けて必要となる様々な分野の研究を行い、その成果を地域や国際社会に還元していくことを目指している。

現在進行中のプロジェクト(抜粋)

- 橋梁の維持管理のためのロード・レーティング手法の開発
- モニタリングによる斜面崩壊の予測と警報システムの開発
- 土石流・泥流災害における流木の衝突・集積現象に関する研究

期待できる成果・評価など

インフラ構造物を適切に維持管理することで災害時の被害を低減し災害後の復旧を迅速に行うことが可能となる。当センターで橋梁などの維持管理手法の開発や、点検・維持管理のための講習会を埼玉メンテナンス研究会と共同で実施し人材育成を行っている。斜面崩壊に関しては、予測・警報システムの開発し、安心・安全の確保と人的被害を最小限にすることを目指している。津波対策や河川管理に関しても水害を減災する手法を開発し、大槌町や白糠町などで採用されている。さらに、常時は広告板と機能し、災害時には避難情報などを提供するデジタルサイネージの開発を行い社会実装を進めている。

第61号テーマ 「レジリエント社会の構築に向けて」

フェスタ 2020年度版(日本再生シンポジウム) “彩の国”市民科学オープンフォーラム
 令和元年東日本台風から1年
行政と住民、それぞれの危機管理の方向性

日時 12月5日(土) 13:30~16:30 (開場13:00)
 会場 ウェスト川越多目的ホール
 参加無料 会場100名 オンライン300名

プログラム

13:30~13:40 開会 センター長挨拶 埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター長 田中 規夫
 13:40~15:25 話題提供・質疑応答
 「関東地方整備局の取り組みについて」 国土交通省 関東地方整備局 河川部長 西澤賢太郎
 「浸水リスク情報の積極的な活用について」 埼玉県 国土整備部 参事兼河川防犯課長 林 雄一郎
 14:20~14:25 休憩
 「令和元年千曲川水害で顕在化した課題」 信州大学 工学部 水環境・土木工学科 教授 吉谷 純一
 土佐大学 令和元年水害 19年度市民科学調査員 中部 北郷 三枝 氏
 「水災害対策とまちづくりの連携」 国土交通省 都市局市街地整備課長 菊池 雅彦
 15:25~15:35 休憩
 15:35~16:25 パネルディスカッション 話題提供者 埼玉大学研究機構 レジリエント社会研究センター長 田中 規夫
 川越市 危機管理課長 市ノ川 平明 氏
 川越市 市民生活課 課長 小川 敏晴 氏
 16:25~16:30 閉会の挨拶 埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター 教授 長田 昌彦 氏

お問合せ・お申込み 埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター事務局
 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255 Tel/Fax:048-858-9572 ●郵送の場合は、事前に
<http://iirs.saitama-u.ac.jp> E-mail: info-iirs@gr.saitama-u.ac.jp ●ウェブサイト・メール・FAX
 からの申し込みが可能です。
 ●OPD さいたま市で実施のOPDは埼玉大学が主催するものではありません。●本フォーラムは埼玉大学が主催するものではありません。
 ●本フォーラムはOPDの開催を目的とするものではありません。開催にあたってはOPDの開催に賛同する方、関係機関と協力して開催いたします。

主催：埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センター
 共催：国土交通省関東地方整備局 国土交通省 国土政策部 国土政策課 国土政策課長 国土政策課長 国土政策課長
 後援：国土交通省 関東地方整備局 埼玉県 国土局 国土政策課 国土政策課長 国土政策課長 国土政策課長 国土政策課長
 埼玉県 国土政策課長 国土政策課長 国土政策課長 国土政策課長 国土政策課長 国土政策課長 国土政策課長

防災などに関する知識や情報を広く市民の方に公開するための社会活動の一環として、県や市、国土交通省関東地方整備局等後援のもと、年に1度一般市民向けフォーラムを開催している。上図は令和2年度オープンフォーラムのポスター。